



宇都宮畳工業株式会社

寛延9年(1756)年創業

今、店先で長い針を器用に使つて畳を作る職人の姿を目にすることは滅多にありません。しかし、素足に触れるやさしい感触やゴロンと横になったときの心地よさは、今も変わらず人の心を惹きつけます。和の伝統が息づく「畳」を作り続ける老舗を訪ねました。

伝統を残すために、対応力を強化



先代から引き継いだ「手かざ」と呼ばれる畳道具

1400年もの長い歴史を持つ「畳」は、江戸時代中期までは高貴な人だけが使う高級品でした。

江戸後期の寛延9年に創業した宇都宮畳工業(株)の始まりも、宇都宮藩主戸田家の御用畳師。宇都宮城の畳を一手に引き受け、御用の際は領内から腕の立つ職人を集めて藩主の居間や武家屋敷、仲間部屋などの畳替えを担当していたそうです。薩藩置県となった明治以降は町屋の受注にも進出し、戦時中は陸軍御用達を務めました。藩から受けた今小路御用通用口(現在の二番町)で代々畳店を営んできたこ

とから、畳業界では「今小路」の名で通っています。

戦後、ライフスタイルの欧米化とともに日本の住宅は大きく変化しました。今や、和室が一部屋もないマンションや建売住宅も珍しくない時代。以前のワラ床を発泡スチロールに変えた軽畳畳や、い草を使わない新素材の畳表、アレルギーの発症を抑える健康畳など、新しい機能を備えた畳の商品化も進んでいます。

「和モダンのカラー畳を市松に敷くなど、昔は実用品だった畳が今では装飾品になりつつあります。その一方で、神社仏閣や

武道場、茶室などでは昔ながらの畳が求められます。伝統を残しながら、細分化する顧客ニーズに対応できる店ではなくては継続はできません」と経営の難しさを話す社長の坂井治夫さん。昭和から平成にかけて畳を取りまく状況が最も変化した時

期に社長に就任した後、いち早く顧客ニーズをつかみ、フレキシブルな対応で事業を拡大してきました。

平成5年には、少人数で重畳が可能な製造設備と倉庫機能を備えた上田原工場を新築。長男の俊彦常務とともに社内の製品管理やリサイクルシステムを構築し、平成13年にISO9002認証を取得するなど、その先見性あふれる取り組みは、業界でも先駆けとして注目の的となりました。

「当社には100年以上のおつき合いのお客さまもいらっしゃいます。品質の優れた畳を作るのは当たり前。しかし、時代が求めるスピードや建築業界の変化に対応するためには機械化が必要だと考えました。その積極的な事業展開を支えたのは、『顧客満足のためより良い製品をより早くより安く提供し、顧客の信頼を得る』という品質方針。この顧客第一、品質本位の精神こそが、代々受け継がれてきた同社の誇りです。

設備を整え次代に事業を継承したい……そんな思いもあつて設立し

たという上田原工場には、関東に1台という機械をはじめ数々の機械が並び、1枚約5分〜10分というスピードで畳を製造しています。その奥には、昔ながらの床針を使い畳を縫う若い社員の姿。

「どんなに機械化が進んでも、柱に合わせて切り込んだり、アール型に仕上げるには、手作業でないと対応できません。技術の継承にも力を入れていきます」と熱心に後進の指導にあたる俊彦常務。畳のJIS規格化が検討されるなど、業界が変革のときを迎える中「先が読みにくい業界です」と厳しい表情を見せながらも、決して手綱を緩めず、経営改善の道を模索し続けています。



上田原工場では1日80枚~100枚以上の畳製造が可能



代表取締役坂井治夫氏(右)と、常務取締役坂井俊彦氏

宇都宮畳工業株式会社
(本店)
宇都宮市二番町1-31
☎028-633-4819
(工場)
宇都宮市上田原町1807
☎028-672-3567

※このコーナーは隔月で掲載します。